

し、さらに非常用発電設備のほか、低層階に設置している冷却水循環ポンプ及び空気圧縮機が使用不可となり、発生水素の掃気及び崩壊熱の除去に係る設備が各施設で同時に停止したことを想定した訓練を実施し、平成24年2月1日、3月15日、4月20日にも同様の訓練を実施しています。その他、通信手段の操作訓練、重機の取り扱い訓練などを個別に実施しています。

このように、マニュアルの整備や訓練による操作性向上など改善を図っており、今後も緊急時の対策が適切に機能するよう継続した対応を行っていきます。

答7: (質問1-1)高放射性廃液は、分離精製工場にある90m<sup>3</sup>の貯槽4基(うち、1基予備)、高放射性廃液貯蔵場にある120m<sup>3</sup>の貯槽6基(うち、1基予備)に貯蔵されています。

貯槽の概要を図-1に示します。高放射性廃液貯槽では、除熱のための冷却水の循環、水素掃気のための空気の供給及び排気を行っています。

なお、設備情報が識別できるような図資料等の提供は核物質防護上行うことができません。

(質問1-2)高放射性廃液には、セシウム、ストロンチウムなどの核種が含まれています。これらの核種の放射能濃度の合計は10<sup>10</sup>Bq/cm<sup>3</sup>オーダーです。

なお、図資料等の提供は核物質防護上行うことができません。

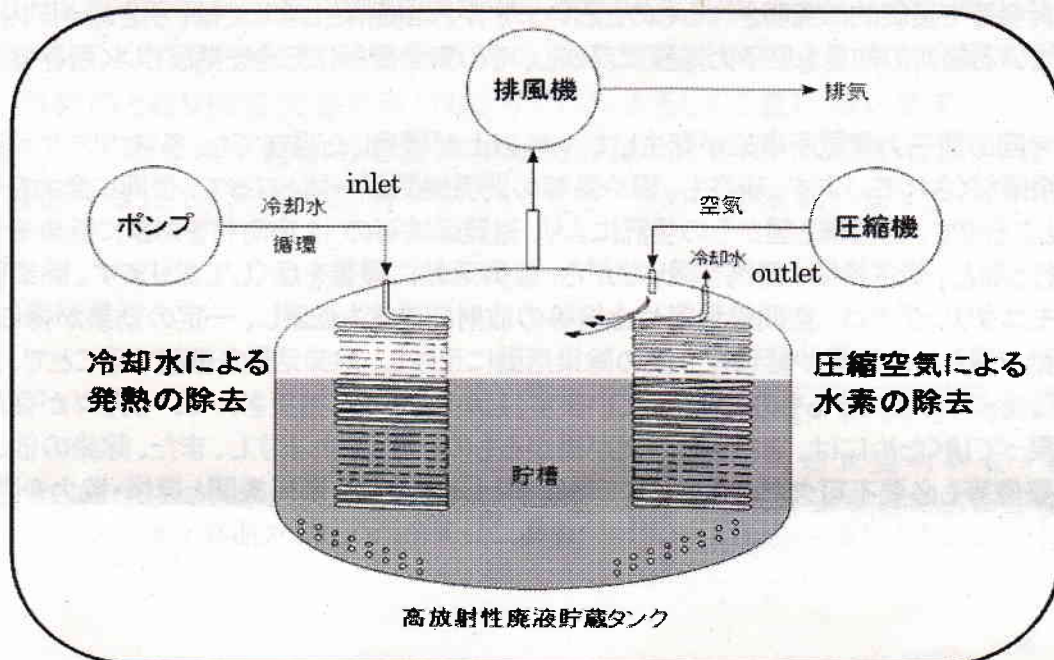


図-1 高放射性廃液貯槽概要図

答8: 平成23年3月11日の地震により、東海再処理施設では商用電源(外部電源)が停電しましたが、非常用発電機により必要な電源が確保できておりました。また、研究所外からの工業用水の断水が生じましたが、研究所内の貯槽に保有する水を使用して東海再処理施設内への給水を確保することができました。

東海再処理施設内の道路や建物周囲の地面が一部で陥没しましたが、建物自体は地震の影響を受けませんでした。研究所内の一部の建物において、外壁の破損やクレーンが落下したも